



薬剤耐性（AMR）を知ろう！

薬剤耐性(AMR:Antimicrobial Resistance)とは

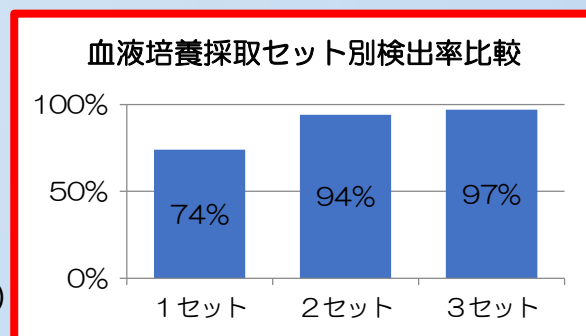
抗菌薬の不適切な使用により細菌に対して抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなることを言います。薬剤耐性菌が増殖して抗菌薬が効きづらくなると、本来軽症で回復できるはずの感染症の治療が難しくなり重症化しやすくなる、さらには死亡に至る可能性があります。AMRが助長される原因としては以下の2つが主にあげられます。

①広域抗菌薬の不適切な使用

広域抗菌薬の長期投与により、薬剤耐性を獲得しやすい環境を作ってしまいます。培養結果からデ・エスカレーションの検討を行うことで、広域抗菌薬の不適切な使用を防げます。

②抗菌薬の過小投与（投与量や投与期間）

投与量や投与期間が十分でないと、薬剤耐性菌だけが増殖できる環境を作ってしまいます。



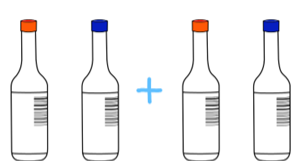
抗菌薬の適正使用に必要な検査

①培養検査（喀痰・尿・血液・その他感染源と思われる部位など）

- 細菌の種類によって有効な抗菌薬は異なります。また、細菌の耐性化を防止するためにも適切な抗菌薬の選択が重要となり、各種培養が必要となります。培養結果を参考に適切な抗菌薬を選択することが薬剤耐性菌の対策につながります。

※広域抗菌薬使用時は血液培養が大事となります

原則血培の採血は異なる部位から2セット必要

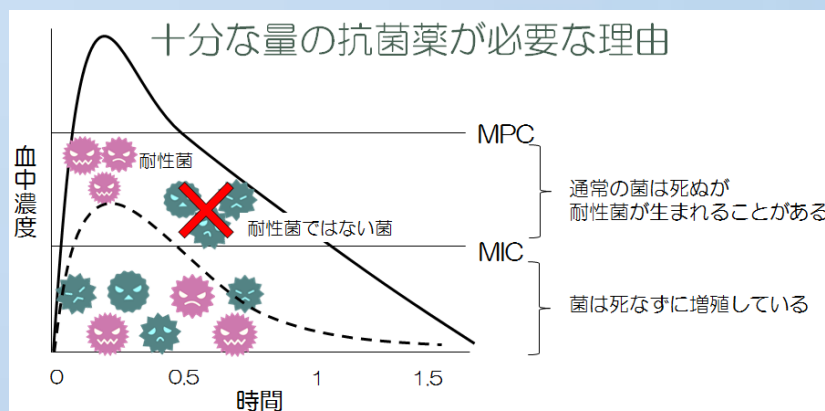


採血のタイミングは
抗菌薬の開始前

* 抗菌薬の投与が開始されている場合は、次の抗菌薬投与直前に採取

複数採取する理由（出来れば両上肢）

- ⇒菌の検出率を上げるため
- ⇒1セットだと起因菌かコンタミネーションか分からない
- ⇒複数セットの内、1セットのみ陽性だとコンタミネーションの可能性
- ⇒複数セット全て陽性だと起因菌の可能性大
- ⇒CV・鼠径はコンタミネーション率が高い
- ※これらは検出菌によって解釈が異なります



②TDM（薬物治療モニタリング）

- バンコマイシン治療において血中濃度が低い場合は効果が不十分となり、高い場合であれば腎障害などの副作用が起こりやすくなるため、治療域内に収まるよう薬物治療モニタリングが求められています。血中濃度を測定し、データを解析して薬物の投与計画を立てるため、採血のタイミングが重要になります。

トラフ値・ピーク値

トラフ値：抗菌薬を投与する直前の血中濃度
透析患者の場合は透析直前の血中濃度

ピーク値：投与後体内の組織に行きわたった後の血中濃度

